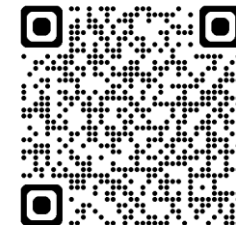


第14回 ライフプランを描く③

本資料は、日本FP協会が作成したものです。ご使用にあたっては、下記リンク先の「講義資料の使用に関する留意事項」をご確認ください(クリックすると、J-FLEC HP(金融経済教育推進会議 大学連携講座ページ)に遷移します)。[大学連携講座](#)



～前回の振り返り～

- ・老後資金の考え方
- ・ライフイベント表、キャッシュフロー表の意義
- ・キャッシュフロー表の見方

本日は、課題であるキャッシュフロー表の見直し案について、講師（ファイナンシャル・プランナー）から具体的な見直し方法を提案します。

ライフプランを考えるうえでの大きな視点

- ▶ 一生涯を通してみると、「億」単位の支出が想定されます。
- ▶ その支出を賄うためには、それに見合った「収入」を確保する必要があります。
- ▶ 将来の収入には不確実性が付きもの。事情の変化に応じてライフスタイルを変えることも必要になるかもしれません。
- ▶ 少子高齢化が進み、年金の受給開始年齢が引き上げられたり、医療費や介護費用の負担が大きくなる可能性も考えられます。
- ▶ 老後は、年金収入と貯蓄等の取り崩しで生活せざるを得ないため、若いうちから計画的に資産形成(貯蓄・資金運用)をする必要があります。

ライフプランニングの見直し

☆見直しのポイント

- ライフイベントの時期に無理はないか？
- 適正な保険を選んでいるか？
- 住まいや住宅ローンに無理はないか？
- 長期投資や分散投資による資産形成は？
- 収入を増やす手段は無いか？



グループに分かれて、より良いライフプランについて議論しよう！

グループ討議の進め方

- ▶ 課題のキャッシュフロー表で見直した方が良かった点、実際に見直しをしてみたことによって改善された点などをグループの中で発表してみよう。
 - ⇒ 具体的な見直し方法が分からなくても、「問題かな？」と感じた点も共有してみよう。
- ▶ グループの他のメンバーの発表を聞いて、気づいた点や考え直した点をチェックしよう。
- ▶ グループの中で、重要な見直しポイントだと意見が一致した事項を発表し、他のグループの意見も聞いてみよう。

グループ討議は**10分間**です。

それでは開始してください！

収支を改善するために

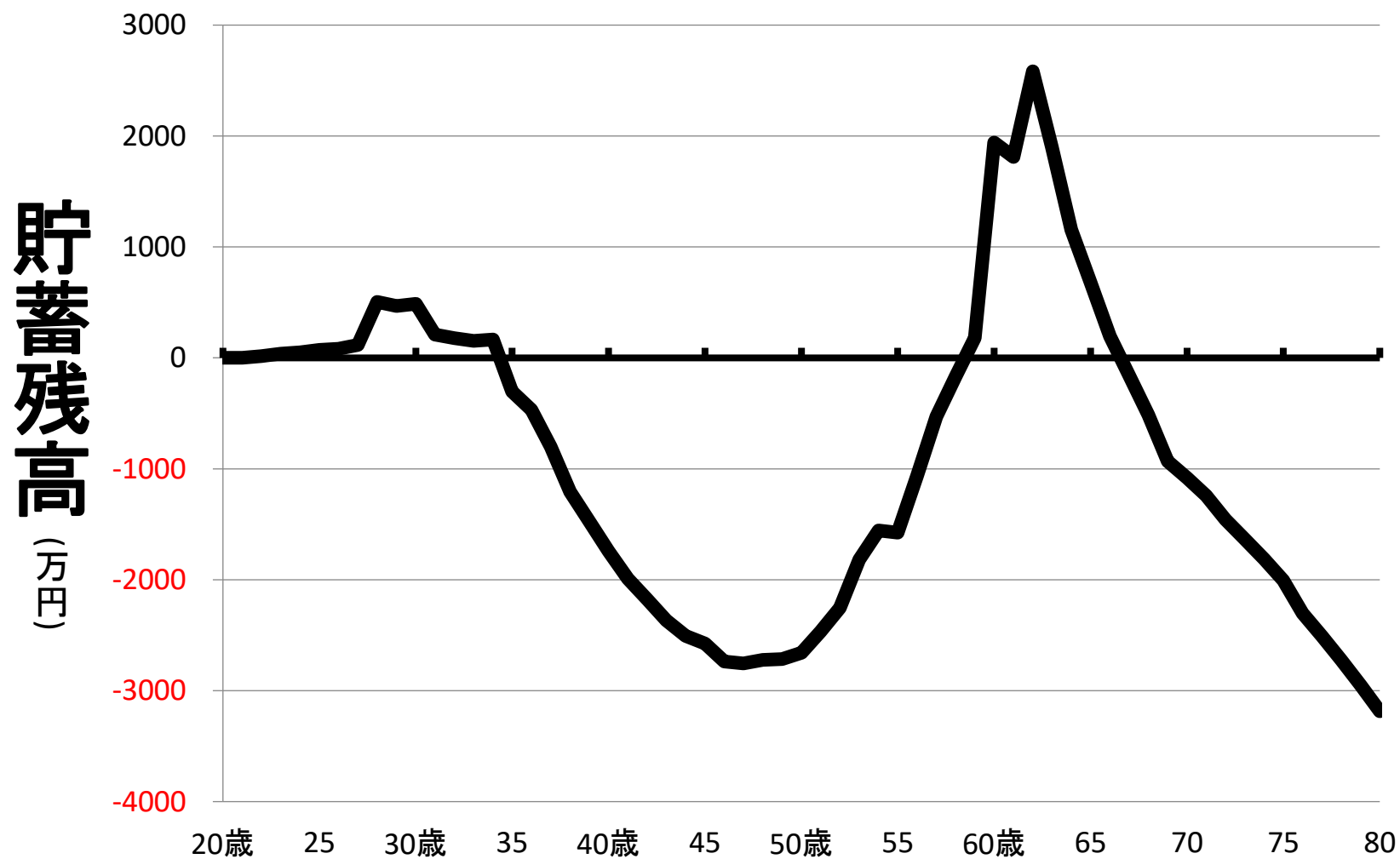
☆お金を増やすための3つの方法

支出を減らす

貯蓄・
資金運用で増やす

収入を増やす

現状での貯蓄残高（まるおさんのキャッシュフロー表）



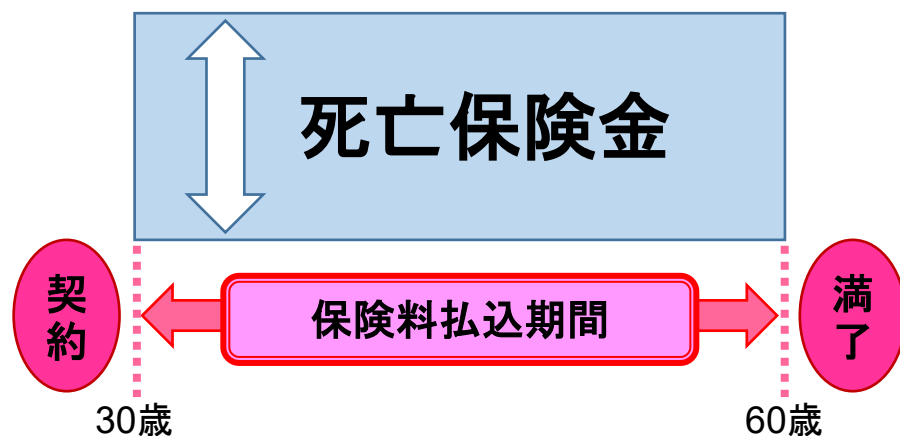
① 保険の見直しをする

- 一般に、子供が自立すると、大きな保障は必要なくなります。世帯主の死亡保障額を下げることで、保険料を減額することができます。
- 医療保険に関しては、高額療養費制度など公的制度の活用で自己負担額を抑えられる可能性があります。
入院日額を減額することで、保険料を減らすことも一案。
- 住宅を取得した場合、通常は団信(団体信用生命保険)に加入するので、既加入の生命保険の保障額を引き下げることにより保険料を減額しやすくなります。

生命保険・医療保険等は、ライフステージごとに見直しが必要

万一に備える保険＝生命保険

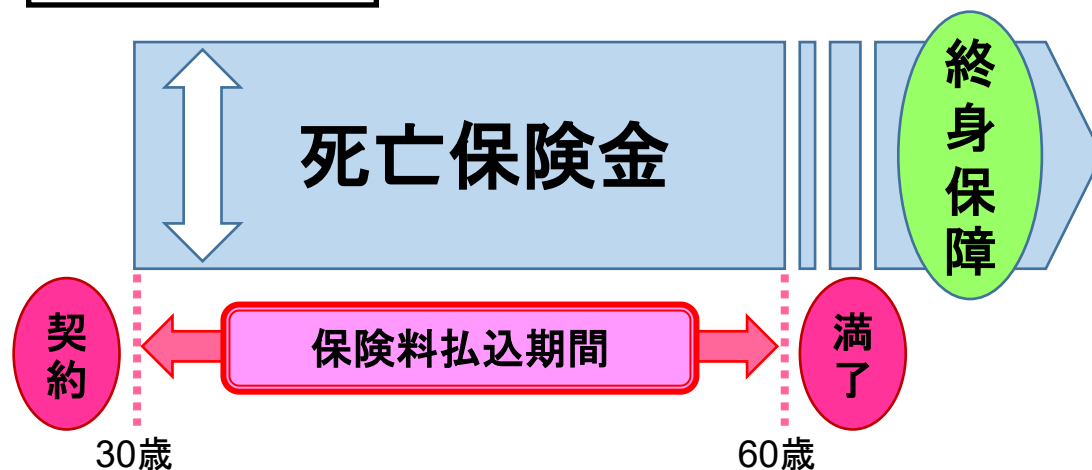
●定期保険



保険期間が一定で、その期間に死亡した場合に保険金を受け取れる。

30歳男性（30年間の保障）
死亡保障 1,000万円の場合
月額保険料例 2,470円（60歳まで）

●終身保険



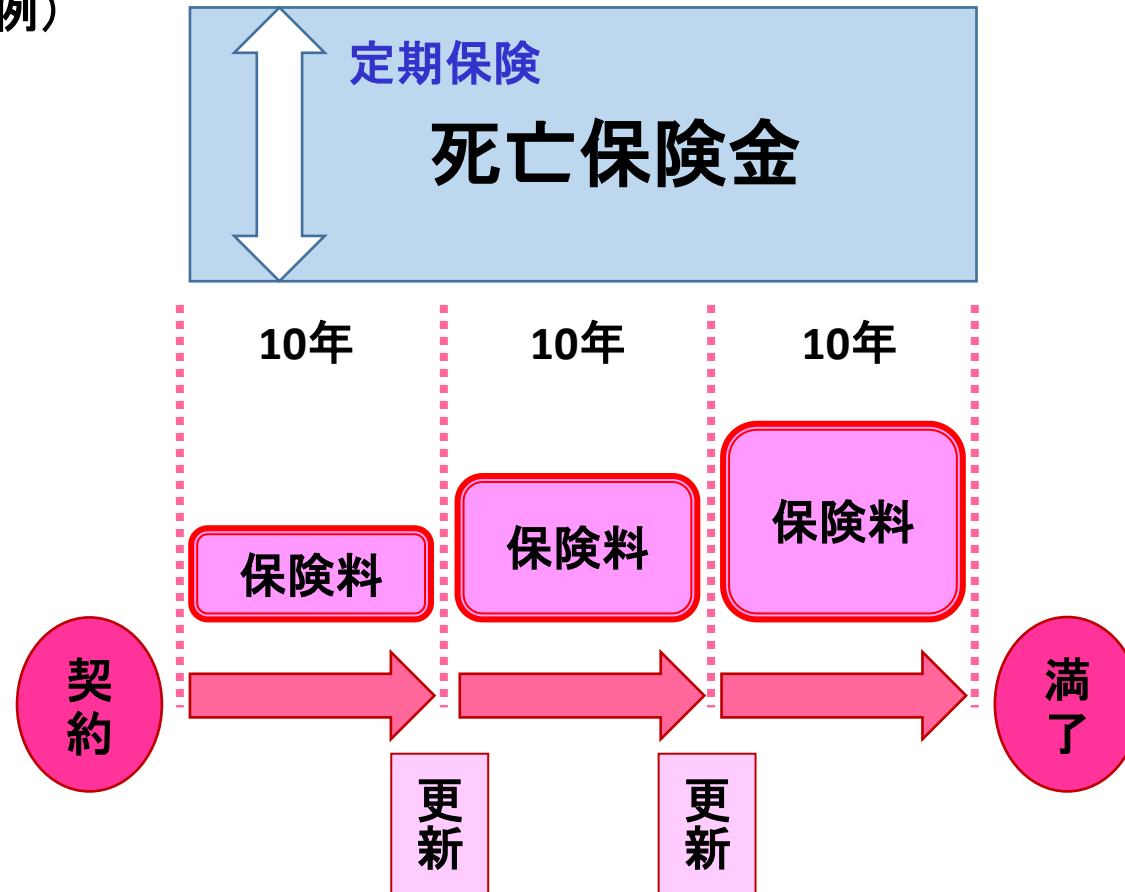
保険期間が一定ではなく、一生生涯死亡保障が続く。

30歳男性（一生涯の保障）
死亡保障 1,000万円の場合
月額保険料例 20,470円（60歳まで）

万一に備える保険＝生命保険

●定期保険(更新型)

(例)



更新型の場合、
更新毎に保険料が
アップします。

まるおさん（夫婦）が加入予定の生命保険

定期保険			医療保険		
死亡保険金	2,000万円	2,000万円	入院給付金 日額	10,000円	10,000円
被保険者	夫	妻	被保険者	夫	妻
受取人	妻	夫	受取人	夫	妻
保険料 (月額)	25～35歳 1,600円	25～35歳 1,000円	手術給付金	入院中20万円 外来5万円	入院中20万円 外来5万円
	35～45歳 2,500円	35～45歳 2,000円	保険料 (月額)	25歳～終身 2,300円	25歳～終身 2,900円
	45～55歳 5,400円	45～55歳 3,800円			
	55～65歳 12,500円	55～65歳 6,800円			
	更新型、10年ごとに保険料の見直しあり			終身払込み・終身保障	

- ・損害保険料(自動車保険) 年額 6万円
- ・火災保険・地震保険(マンション購入以降) 年額 5万円

定期保険			医療保険		
死亡保険金	2,000万円	2,000万円	入院給付金 日額	10,000円	10,000円
被保険者	夫	妻	被保険者	夫	妻
受取人	妻	夫	受取人	夫	妻
保険料 (月額)	25～35歳 1,600円	25～35歳 1,000円	手術給付金	入院中20万円 外来5万円	入院中20万円 外来5万円
	35～45歳 2,500円	35～45歳 2,000円	保険料 (月額)	25歳～終身 2,300円	25歳～終身 2,900円
	45～55歳 5,400円	45～55歳 3,800円			
	55～65歳 12,500円	55～65歳 6,800円			



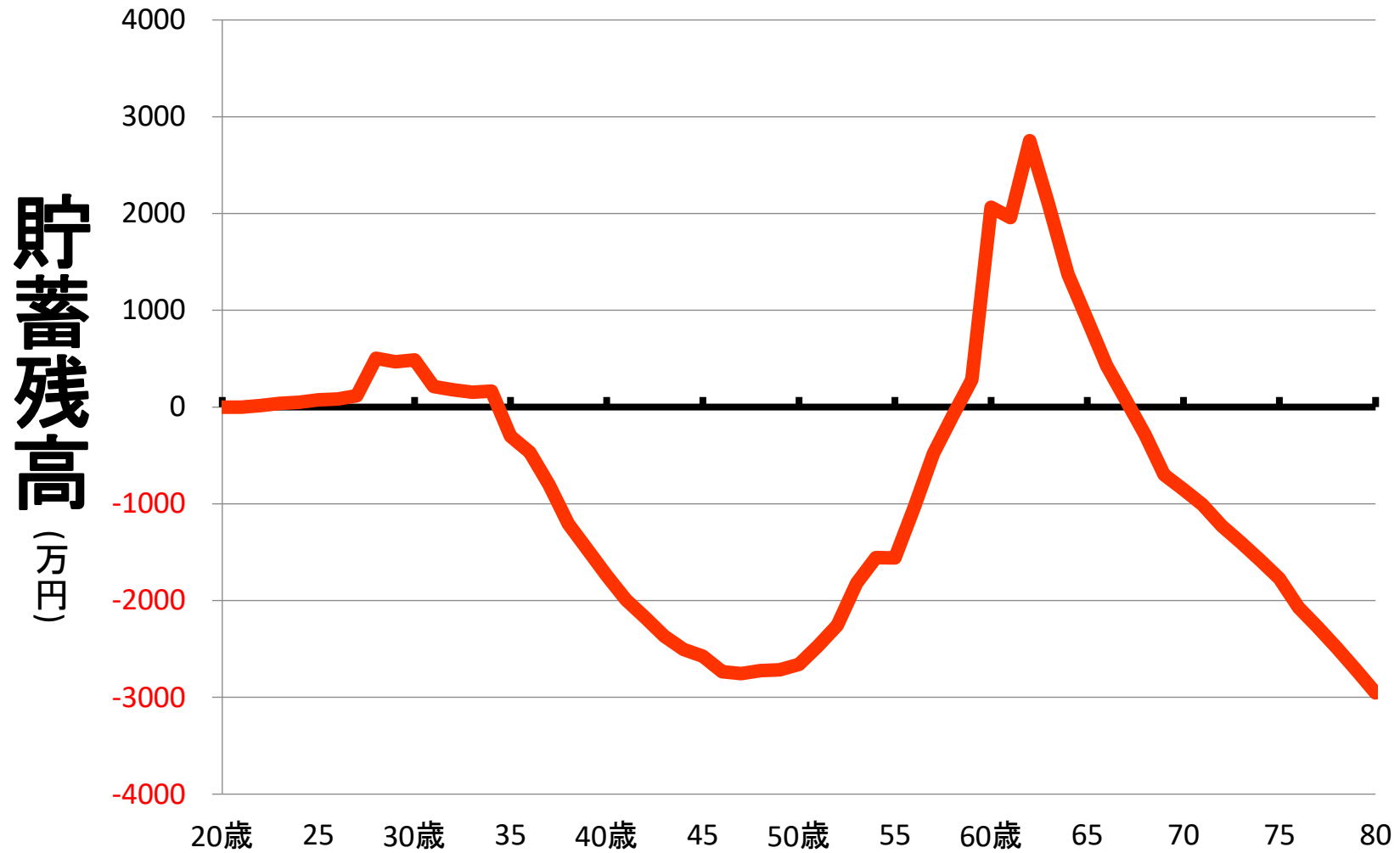
(定期保険)

・55歳～65歳 **解約** ⇒ 保険料月額夫**12,500円**、妻**6,800円**削減

⇒上記のように保険の見直しをすることで、
80歳時の貯蓄残高が、約**231万円**改善されました。

★ 赤字 約3,185万円 → 赤字 約2,954万円

①保険の見直し結果



②新築ではなく、中古マンションをリフォームする※

(物件価格 新築5,000万円 ⇒ 中古3,500万円<リフォーム代含む>)

※日本では総戸数が総世帯数を上回っており、空き家率は約14%である。
(総務省 令和5年住宅・土地統計調査より)

(例)借入金額を5,000万円⇒3,500万円に減額

借入額の減額により、35年間の支払い総額(税金等含む)
は2,361万円減、利息総額も600万円減らすことができます。
(固定金利2.0%・元利均等返済で試算)

<注> 中古住宅を購入する場合は、別途仲介手数料が必要。手数料の上限額は、成約価格の
3%に6万円を加算した額。
(3,500万円物件の場合) $3,500万円 \times 3\% + 6万円 = 111万円$

住宅ローンの借入金額を減額した場合

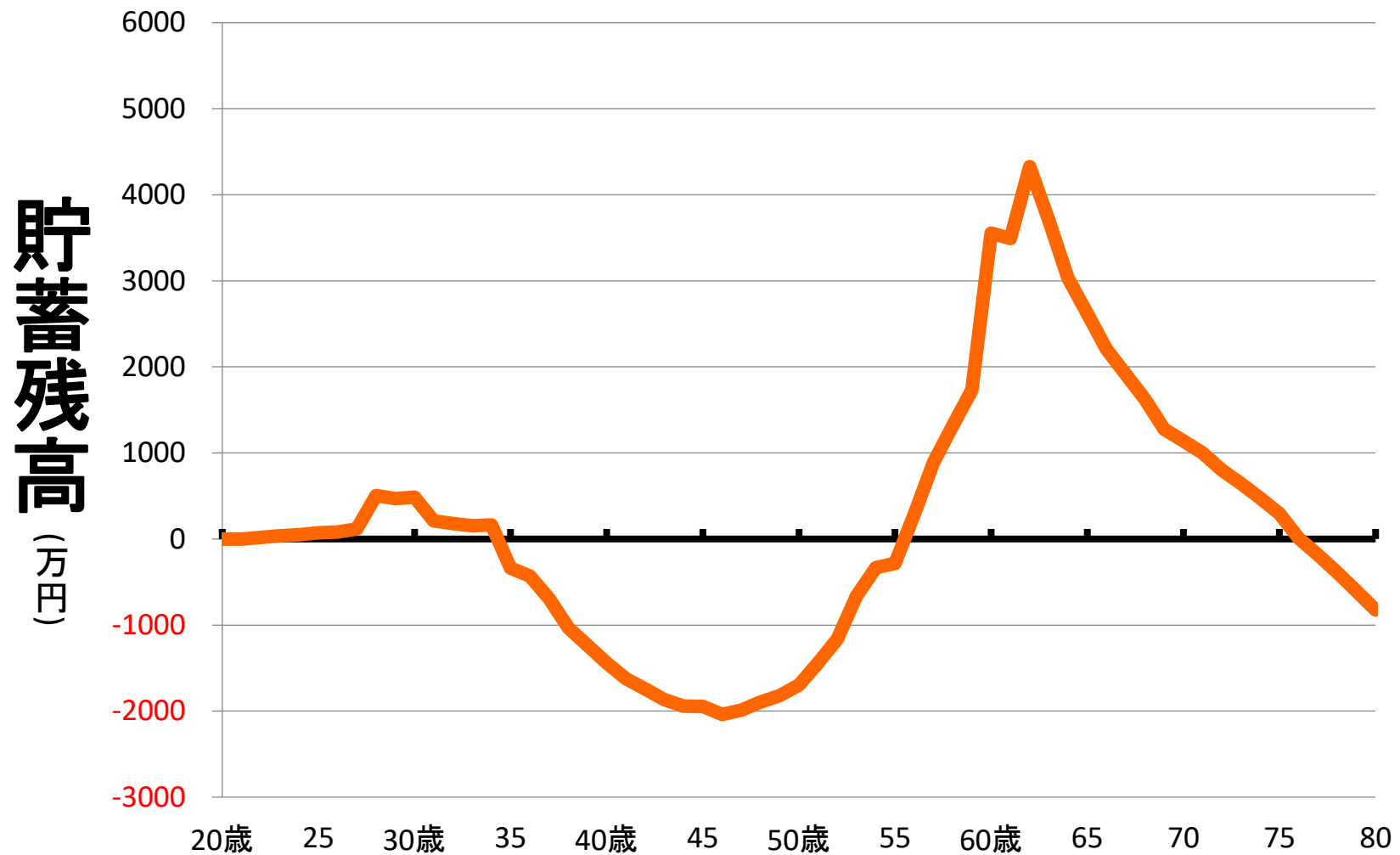
	見直し前	見直し後
借入金額	5,000万円 (ボーナス返済なし)	3,500万円 (ボーナス返済なし)
借入期間	35年(35～70歳)	35年(35～70歳)
金利	2.0%(固定金利)	2.0%(固定金利)
返済方法	元利均等返済	元利均等返済
毎月の返済額	165,750円	116,025円
年間の返済額	約199万円	約139万円
総返済額	約6,965万円	約4,865万円

⇒中古マンションの購入に変更することで、
80歳時の貯蓄残高が、約2,361万円改善されました。

★ 赤字 約3,185万円 → 赤字 約824万円

注)税金は減額、駐車場代を月額1万円へ減額して計算

②中古物件にした結果



③ 教育費の見直し

(例)

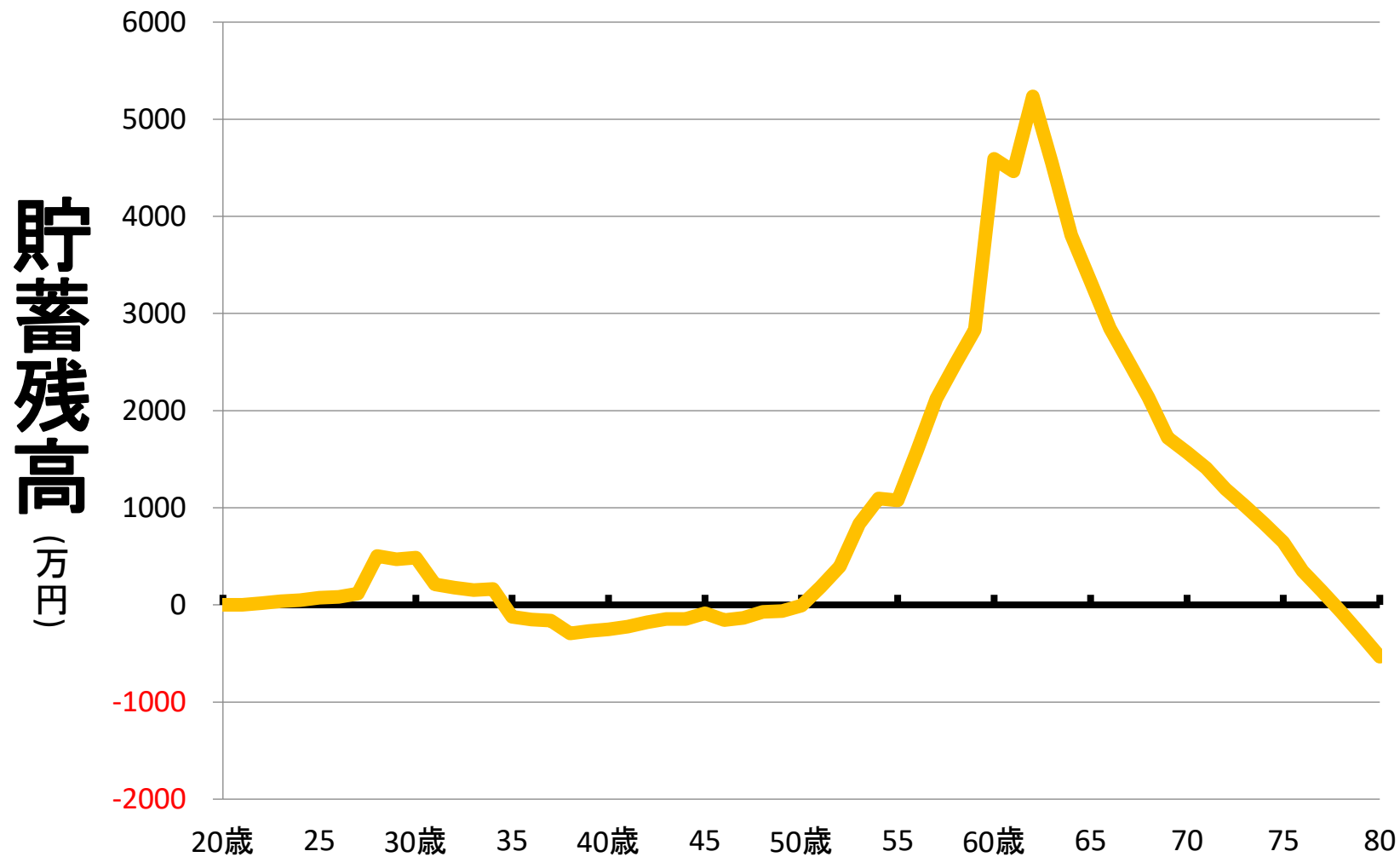
子供の学校はすべて私立ではなく、小学校から高校まで公立へ進学する。

⇒子供の学校を小学校～高校まで公立、大学は私立と変更することで、80歳の貯蓄残高は約2,652万円改善されました。

★ 赤字 約3,185万円 → 赤字 約533万円

子供1人が高校まで公立へ進学した場合、すべて私立の場合に比べて約1,326万円減らすことができました。

③2人の子供が高校まで公立へ通学した結果



④ 夫婦が65歳まで働く (例)

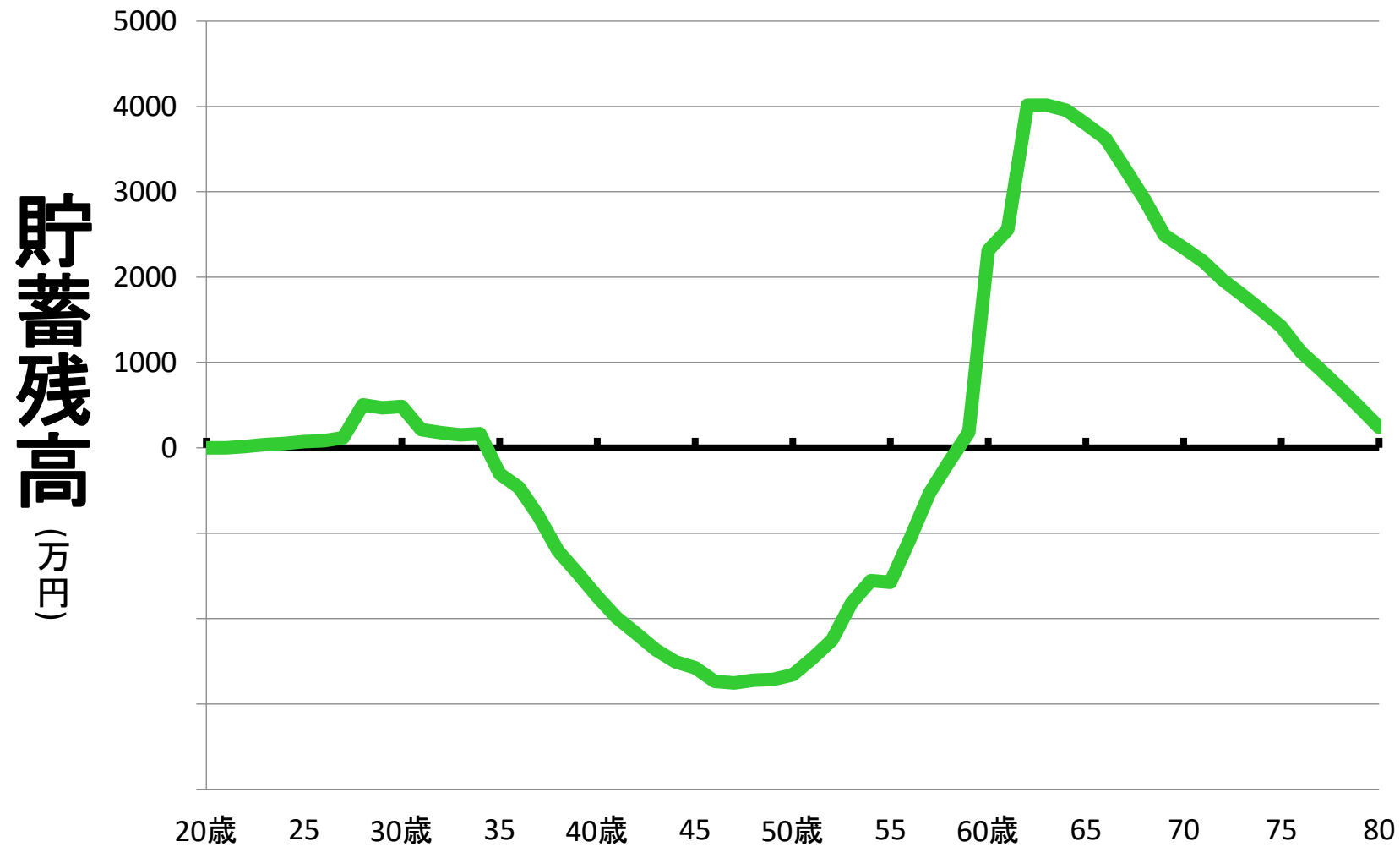
60歳時点の収入の5割で夫婦が65歳まで働き続ける

⇒80歳時の貯蓄残高が、約3,425万円改善されました。

★ 赤字 約3,185万円 → 黒字 約240万円

キャッシュフローを改善させる方法として、
長く働き続けることも重要！

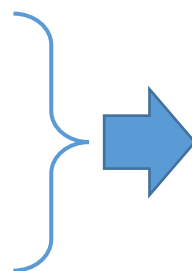
④夫婦が65歳まで働き続けた結果



キャッシュフローの見直し例⑤⑥

⑤ 家計見直しは総力戦！

- ①保険の見直し
- ②住宅の見直し
- ③教育費の見直し
- ④夫婦が65歳まで働く



4つ全てを実践することで、
80歳時の貯蓄残高が、
約8,669万円改善されました。

★ 赤字 約3,185万円
→ 黒字 約5,484万円

⑥ 総力戦⑤＋貯蓄の運用

資金運用で増やす

金融資産(貯蓄残高)を年利1%で複利運用できたとする。

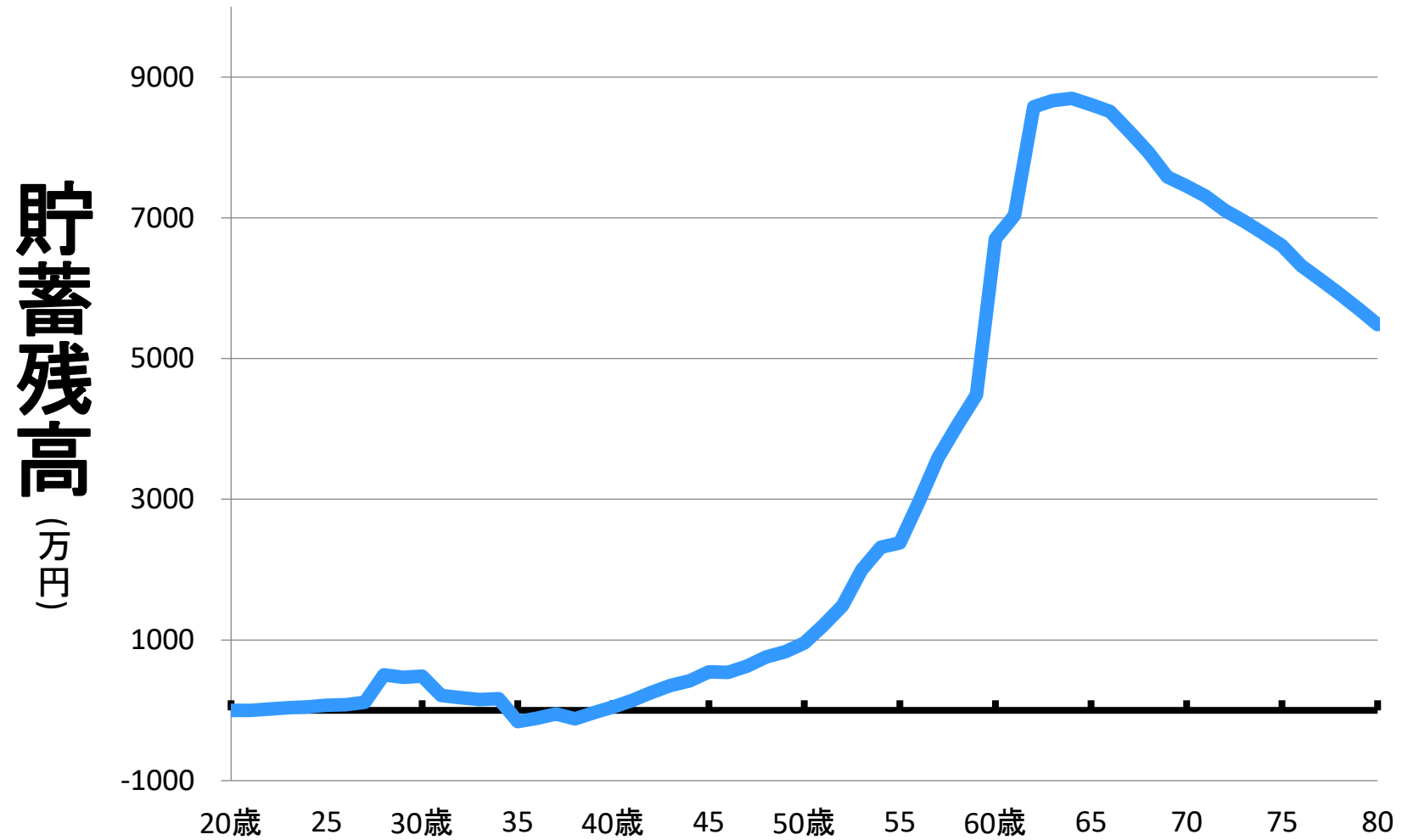
※運用方法によっては、元本割れとなるリスクもあることに注意。



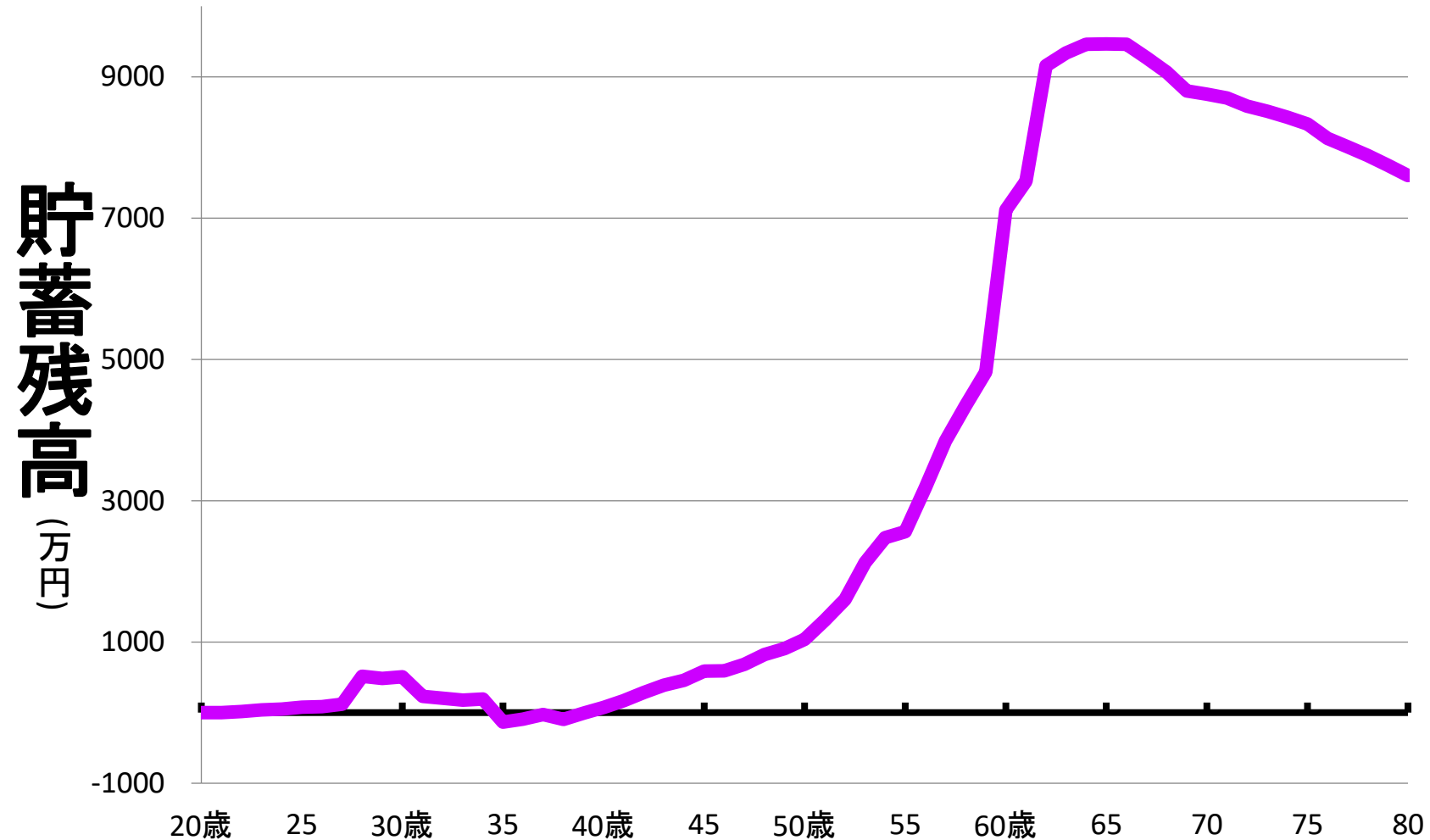
⑤+⑥の対策で、80歳時の貯蓄残高が約1億788万円改善されました。複利運用の効果 約2,119万円。

★ 赤字 約3,185万円 → 黒字 約7,603万円

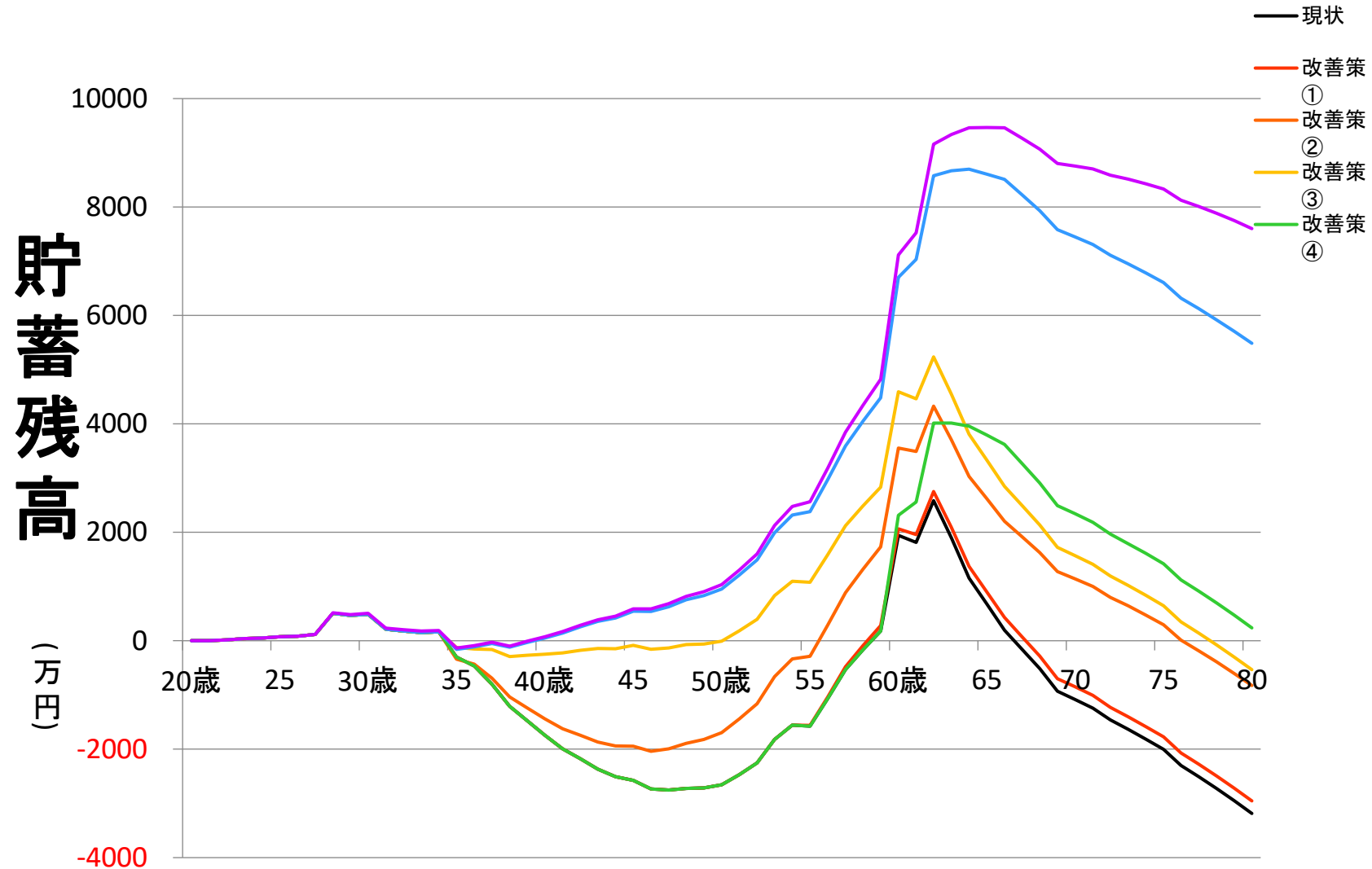
⑤総力戦①～④を実践した結果



⑥総力戦＋資金運用を実践した結果



改善策すべてを比較すると...



学生の皆さんの見直し事例の紹介

①教育費

進学先を私立→公立に変更する、奨学金を利用する

②自動車関連費

購入間隔の調整、購入頻度を減らす、新車
→中古車、購入せずカーシェア・レンタカーなどを活用

③不動産の購入費用の見直し

マンションのローンを金利が低い銀行で借りる、郊外のマンションを購入する、またはマンションを戸建てに変更する(駐車場付きの物件にする)

④再雇用・再就職、副業、アルバイト

まるおさんが65歳まで働く、副業で収入を増やす、
定年後はアルバイトする

⑤貯蓄・資産運用

生活費の見直し(ex:スマートフォンの料金プランを変更)、娯楽費の見直し(ex:海外旅行→国内旅行)、NISAやiDeCoの投資で資金を増やすなど

ライフプランは一人一人さまざまです！

ただ、どのようなライフプランを想定したとしても、
共通して言えることは

十分な資産形成が必要ということ

☆若いうちから、準備していきましょう。

備えあれば憂いなし！！
コツコツ計画的に続けるのが大事

専門家の意見を聞くことも有益

- ▶ ライフプランの立案や見直しのときは、ライフイベントにかかる費用のことだけでなく、お金の節約や貯蓄・運用のコツ、年金や税金の制度の内容など、専門的な知識やノウハウが必要になることがあります。
- ▶ そんな時は、「その道のプロ」に相談してみるのが良いでしょう。ファイナンシャル・プランナー、社会保険労務士、税理士など、さまざまなプロがいます。
- ▶ 相談したい内容に応じ、各々の団体のHPにアクセスしてみてください。
- ▶ なお、相談には有料の場合もありますので、有料・無料の別なども確認して下さい。

ライフプラン講義のまとめ

- ▶ 社会人として、どんな人生を送りたいか、どんな夢を叶えたいかを考え、その実現に向けて長期的なプランを立てよう。
- ▶ プランの実行には、お金の計画が必要不可欠です。
- ▶ 生涯の収入と支出がバランス良くなるよう現実的な計画を立て、必要に応じて見直そう。
- ▶ 計画を立てるとき、見直すとき、必要に応じて「プロ」に相談してみよう。